様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３４３１０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ１２６２１

研究課題名（和文）A grassroots feminist economic thought:　connecting feminist economics with the oral historical research on the British working-class Women's Liberation movement

研究課題名（英文）A grassroots feminist economic thought: connecting feminist economics with the oral historical research on the British working-class Women's Liberation movement

研究代表者
山森　亮（Yamamori, Toru）

同志社大学・経済学部・教授

研究者番号：９０３２５９９４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：1970年代英国の労働者階級の女性解放運動の独自の要求をオーラルヒストリー調査とアーカイブワークによって明らかにし、それを「草の根のフェミニスト経済思想」として再構成した。成果は、歴史学雑誌History Workshop Journalの主催するGlobal Feminisms についてのオンライン特集に招聘され寄稿することができた他、経済思想史の脱植民地化と多様化を求める第一回の国際会議にて、研究報告の機会を与えられ、専門学術雑誌の特集号に招待され寄稿することができた。また別稿で2021年度Basic Income Studies Essay Prizeを受賞した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
第一にフェミニズム研究のなかで忘れられた重要な史実を明らかにしたこと、とりわけ英国女性解放運動の母体となったHistory Workshop運動の系譜を引く学術雑誌のオンライン特集に寄稿の機会を得たことで、上記史実を広く知らしめ得た。第二に背景にあった思想を「草の根のフェミニスト経済思想」として再構成し、経済思想史の脱植民地化と多様化を求める学問運動の一環として公表したことで、研究を脱植民地化し多様化する運動の一環に位置付けることができた。第三に、ベーシックインカムについての現代的問題とも繋がることを、 Basic Income Studies Essay Prizeの受賞で明らかにできた。

研究成果の概要（英文）：This research explored what was behind the demand for basic incomein the British Women’s Liberation Movement in the 1970s. A resolution for UBI was passed at the National Women’s Liberation Conference in 1977. By interviewing both the working-class women’s liberationists who demanded and the mainstream women’s liberationists who refused / denied the demand, this research reconstructed each thought behind their rationale, elucidated the uniqueness of the former, and named it as ‘grassroots feminist economic thought’. History Workshop Journal invited me to contribute its online special series on ‘Grobal Feminisms’. I had an opportunity to present a part of research at the first conference for ‘decolonising and diversifying the history of economic thought’, then invited to contribute a special issue of an academic journal for history of economic thought. Another paper by the author got the 2021 ‘Basic Income Studies Essay Prize’.

研究分野：フェミニスト経済学、オーラルヒストリー、社会政策

キーワード：女性解放運動　インターセクショナリティー　経済思想　ジェンダー　ベーシックインカム　オーラルヒストリー

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

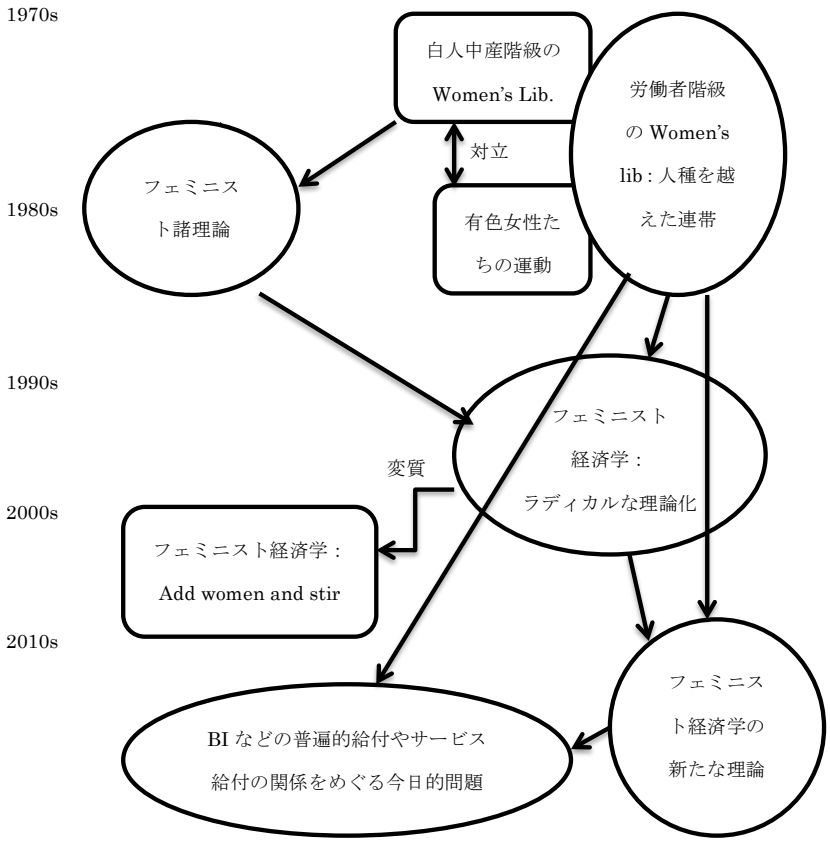
フェミニスト経済学と呼ばれる潮流が公然と姿を現したのは、1990 年代半ばのことであった。この学問運動は、例えば、労働経済学、都市経済学といったような、経済学の一分野を新しく開拓するものではなくて、むしろ経済学一般が想定している人間像などの諸仮定をラディカルに問い直すものであった（Barker and Kuiper 2003, 山森 2016）。とりわけ、主流派経済学の「選好」概念に「必要」概念を対置したり（Nelson 1996, 山森 2002）、主流派—異端派双方が共有する狭隘な労働概念に異議を申し立て、アンペイド・ワークの概念化を行う(Folbre 1994)などの貢献が行われてきた。

その背景に、第二派フェミニズムの影響をみてとることができることは、その時代を生きて来た者たちには当然のことであろう。ところが第二派フェミニズムの歴史研究を参照しようとすると、そこには大きなミッシング・リンクが存在する。

例えば英国における第二派フェミニズム運動は、1970 年から 1977 年まで続いた、全英女性解放会議を巡る動きを中心に語られ、記述されて来た(Rowbotham 1989, 冨永 2007 など)。一方でおもに白人中産階級の運動経験者による同時代史や回顧史(Rowbotham 1989, Segal 2007 など)があり、他方で運動全体を白人中産階級によるものと批判的に総括する若い世代の歴史家の研究（Thomlinson 2012）がある。後者はおもに 1980 年代以降に活躍した有色の女性活動家たちの告発や回顧史（Bryan, Dadzie and Scafe 1985, Sudbery 1998）に依拠している。上述のフェミニスト経済学による新古典派批判につながるような主張は、前者では、女性をむしろ家庭に縛り付ける危険があるとして退けられ、後者では、有色女性の要求ではなかったと記述されてきた。

本研究以前に申請者が取り組んでいたオーラルヒストリー研究(基盤 C26260054)は、これらの先行研究の動向に反して、有色女性と白人女性がともに闘う労働者階級の女性解放運動が、男性も参加する福祉権運動や労働運動などと連帯を模索しながら、存在したことを掘り起こしてきた(Yamamori 2014)。

２．研究の目的



図：オーラルヒストリー研究と今日の理論的展開および政策課題との関係

本研究課題の目的は、インターセクショナリティを伴って展開された英国労働者階級の女性たちの「草の根のフェミニスト経済思想」が、フェミニスト経済学の今日における理論化にどのように貢献できるかを探ることである。というのも冒頭でふれたフェミニスト経済学によるラディカルな理論化は、じつは近年になって、少なくなってきている。国際フェミニスト経済学会や Feminist Economics 誌などでも、近年は主流派経済学のアプローチに依拠しながらジェンダーを一変数として加えるだけの　（Hewitson 1999 の言葉を借りれば「女性を足して混ぜる add women and stir」）研究が数の上では多数を占めるようになってきている。

オーラルヒストリー調査に基づいて、忘れられた「草の根のフェミニスト経済思想」を再構成することで、初期のフェミニスト経済学の持っていたラディカルな理論化を今日につないで発展させていこうというのが、研究開始時に目的としていたことであった。図示すると、図右上の楕円部分についてのオーラルヒストリー調査による知見から、図右下の円について探求すると同時に、図左下の楕円について分析することであった。

３．研究の方法

本研究で取り上げる「草の根の経済思想」については、学問領域の狭間に位置し、ほとんど先行研究がない。経済思想史研究は経済学者によるものだけを対象とすることが当然視されてきた。他方でジェンダー研究においては、本審査小区分「ジェンダー関連」が中区分４、６、８とのみ関連付けられ、経済学（中区分７）が関連付けられていないことに象徴的なように、経済思想と関連づけた研究は近年かなり減少している。こうした状況下において、本研究は女性解放運動についてのオーラルヒストリー研究によって得られた知見を、「草の根の経済思想」として整理し、フェミニスト経済理論の再構築に役立てようとするものである。

経済思想史研究としては、研究対象を暗黙のうちに狭く限定する従来の伝統的な方法論を取らず、Tiago Mata らの「公共圏における経済学」プロジェクトによる非学術的な言説の対象化や、フェミニスト経済学者や近年の経済学の脱植民地化と多様化を求める学問運動参加者らによる方法論的問い直しに学びつつ、労働者階級の女性たちが紡ぎ出した言葉や実践を研究対象に含みうる道を模索した。

オーラルヒストリー研究としては、これまでの申請者による研究と同様、インタビュー調査とアーカイブ調査を以下のように組み合わせる方法論をとった。すなわち、要求者組合に参加した女性たちに対しては、１）個人に対する半構造化インタビュー、２）複数人に集まってもらってのフリートーク、３）複数人に集まってもらっての半構造化インタビュー、の三つを併用する。これらのインタビューによって聞き取った内容のうち、客観的事実に関わるものについては、アーカイブワークによる裏付け調査を行い、裏付けられた「客観的事実」とそれ以外を区別する。したがって、「対話的構築アプローチ」（桜井 2002）は摂らず、むしろ伝統的な歴史学と親和的な方法論に依拠する。その上で、アーカイブワークによって裏付けられた事実をはみ出る、インタビュー調査で語られた内容については、当事者たちが、そのように回想、記憶、意味付けしているという意味での「事実」として扱う。これらの事実は、対立しあうこともありうる。というのも 1977 年の全英女性解放会議で、ある動議が可決されたという、複数のアーカイブ資料で確認できる「客観的事実」について、要求者組合の A さんが、そのことを実際に経験したことを「事実」として語ることと、女性解放運動の中心にいた B さんが、「そんなことは起きなかった」と語った場合に、B さんの言っていることは動議についての客観的事実としては間違っているが、B さんがそのような事実はなかったと主張しているということ自体は「事実」として扱うということである。

４．研究成果

オーラルヒストリー調査とアーカイブワークそのものの研究成果としては、1970 年代の要求者組合運動に、トランスジェンダーであることをカミングアウトして活動していた方への聞き取りを通じて、当時の主流の女性解放運動、労働者階級の要求者組合運動、などにおけるトランスジェンダーの問題が占めた位置などについて貴重な知見を得た。

またイギリス女性解放運動の出発点の一つとされている第一回全英女性解放大会（Oxford Weekend）開催のきっかけとなった、History Workshop 運動によって生み出された歴史学雑誌 History Workshop Journal の主催する History Workshop Online の Global Feminisms 特集に招聘され寄稿することができた。編集担当の方にお声がけいただいたこと、また執筆の過程での助言や励ましに感謝している。

上記のような経緯もあり同媒体は、女性解放運動を中心で担った主流の方々にも読まれており、拙論の掲載をきっかけに、これまで繋がることができなかった、あるいは繋がったもの詳細な聞き取りをすることができていなかった Spare Rib の編集などで活躍された主流派の女性解放運動を担った方々にお話を伺う機会を持つことができた。同じ方が、ある時には、アーカイブ資料で確認された事実を認めるのみならず、その執筆をしたのが自分ではないかと述べたにもかかわらず、別の時には、一旦認めた事実を真っ向から否定するというような、大変興味深いや

りとりを含んでいる。このような振れ幅のある証言はそれ自体貴重な資料であるが、このことの持つ意味については、これまでに発表した論文にも暫定的に触れているが、引き続き、もう少しじっくり時間をかけて再検討することとしたい。

さて、これらのオーラルヒストリー調査とアーカイブワークによって明らかにされた 1970 年代の労働者階級の女性解放運動の諸要求とその背景にあったものを、経済思想についての理論的研究と結びつけることにより、「草の根のフェミニスト経済思想」として再構成した。これは、経済学の脱植民地化と多様化を求める学問運動の一環として開催された、経済思想史の脱植民地化と多様化を求める第一回の国際会議にて、研究報告の機会を与えられ、貴重な励ましと助言を得られたことが大きい。最終的には、その会議に基づいた専門学術雑誌の特集号に招待され寄稿することができた。

ベーシックインカムにおける二つの定義を、本研究で明らかにしたような「草の根のフェミニスト経済思想」と白人男性中心の象牙の塔での議論の特権化との対立との関連で再考した拙稿は、2021 年度 Basic Income Studies Essay Prize を受賞した。

フェミニスト経済学についての理論的な研究に関わる部分を含む著作を 2023 年にまとめ、近日中に刊行の運びとなった。(『忘れられたアダム・スミス : 経済学は必要をどのように扱ってきたか』勁草書房,2024 年 7 月刊行予定)。

また、オーラルヒストリー調査の中で、現在「脱成長」として知られているような内容について、当時の労働者階級の女性運動の中で議論となっていたとの証言を得た。この点について、2024 年度より新たな研究を開始している。

申請者自身の研究成果とは別に、波及効果としては、これまで英語で発表してきた論文のいくつかは、英語圏の歴史学、社会学、ジェンダー研究などの研究で引用され、これまで歴史的事実とされてきたことを書き換えるに至っている。とりわけケンブリッジ大学のイギリス史研究者 Peter Sloman が複数の著作で言及してくれたこと、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（L S E）教授でジェンダー研究者の Mary Evans が著作で言及してくれたことは大きかったと考える。本研究に関わる拙稿を引用してくれた方々のうち Sloman はじめ何人かの方との研究交流には多くを学ぶと同時に支えられてきた。

本研究を遂行する中で、独フライブルグ大学のベーシックインカム研究所より、国際共同研究にお誘いいただき、同研究所内に ‘Universal basic income and Gender’研究チームを作ることとなり、立ち上げメンバーとして関わった。この共同研究からも多くを学びまた支えられてきた。

最後になるが、調査に応じてくださった皆様、助言をいただいた方々、財政的支援をしてくださった日本学術振興会に感謝している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 山森亮	４．巻 52-3
２．論文標題 忘れられたフェミニズムの歴史のなかのベーシックインカム	５．発行年 2024年
３．雑誌名 現代思想	６．最初と最後の頁 254-260
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Toru Yamamori	４．巻 17
２．論文標題 Is a Penny a Month a Basic Income? A Historiography of the Concept of a Threshold in Basic Income	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Basic Income Studies	６．最初と最後の頁 29-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/bis-2021-0037	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Toru Yamamori	４．巻 -
２．論文標題 The Forgotten Feminist History of the Universal Basic Income	５．発行年 2022年
３．雑誌名 History Workshop Online	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Toru Yamamori	４．巻 -
２．論文標題 Grassroots feminist economic thought: A reconstruction from the working-class women's liberation movement in 1970's Britain	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Research in the History of Economic Thought and Methodology / forthcoming (accepted on 4th January 2023)	６．最初と最後の頁 119-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Toru Yamamori	4．巻 5
2．論文標題 CULTURAL JUSTICE, BASIC INCOME AND THE CAPABILITY APPROACH	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Society Register	6．最初と最後の頁 63～74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14746/sr.2021.5.3.04	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山森亮	4．巻 760
2．論文標題 1970年代イギリス労働者階級の女性解放運動とベーシックインカム ： ケアリング階級の予示的政治	5．発行年 2022年
3．雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6．最初と最後の頁 20-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Toru Yamamori	4．巻 44
2．論文標題 The intersubjective ontology of need in Carl Menger	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Cambridge Journal of Economics	6．最初と最後の頁 1093～1113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/cje/beaa028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計15件（うち招待講演　6件／うち国際学会　14件）

1．発表者名 Toru Yamamori
2．発表標題 History of the discussion on the definition of basic income
3．学会等名 22nd Congress of Basic Income Earth Network（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2023年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 Is a Cent a Month a Grundeinkommen? Revisiting the historiography of the concept of a threshold in Basic Income
３．学会等名 Public lecture at Freiburg Institute for Basic Income Studies（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 A Forgotten Feminist History of Universal Basic Income and Universal Responsible Production
３．学会等名 9th International Degrowth Conference（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 Basic Income and Basic Needs
３．学会等名 The annual congress of the Basic Income Earth Network Basic Income Earth Network（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 Forgotten Feminist Voices for / against Basic Income
３．学会等名 The annual congress of the Basic Income Earth Network Basic Income Earth Network（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 A forgotten feminist history of Universal Basic Income and Responsible Production
３．学会等名 4th International Interdisciplinary Symposium Challenges Toward True Sustainable Development at Tubingen University（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 A forgotten feminist history of Universal Basic Income and Responsible Production
３．学会等名 “Beyond Work for Pay” workshop the German Historical Institute, Washington D.C.（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 Forgotten Feminist Voices and the definition of Basic Income
３．学会等名 The annual congress of the Freiburg Institute for Basic Income Studies, Freiburg, Germany（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 Grassroots Feminist Economic Thought: A Reconstruction from the Working-Class Women’s Liberation Movement in 1970’s Britain
３．学会等名 The 1st History of Economic Thought Diversity Caucus Conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 Grassroots Feminist Economic Thought at the Intersection of the Women’s Liberation Movement and the Claimants Unions Movement
３．学会等名 The 29th International Association for Feminist Economics annual conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 In the beginning was the threshold
３．学会等名 The 22nd Basic Income Earth Network Congress（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 Is a penny a month a basic income? Revisiting the historiography of the concept of a threshold in Basic Income
３．学会等名 The 22nd Basic Income Earth Network Congress（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 The Ontology of Intersubjective Need and Its Implications for Heterodox Economics
３．学会等名 The Cambridge Journal of Economics 2021 conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 The ontology of need in Amartya Sen
３．学会等名 Human Development and Capability Association（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Toru Yamamori
２．発表標題 The ontology of need in Amartya Sen
３．学会等名 Human Development and Capability Association（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 山森亮	４．発行年 2024年
２．出版社 勁草書房	５．総ページ数 296
３．書名 忘れられたアダム・スミス 経済学は必要をどのように扱ってきたか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

ドイツ	The Freiburg Institute for BI Studies			